

北海道における基本方針に定める 移動等円滑化目標の達成状況

基本方針に定める移動等円滑化の目標達成状況の概要(全国)

(令和2(2020)年度末現在)

バリアフリー法に基づく基本方針に定められた2020年度までの整備目標の達成状況は下記のとおり。2021年度からは2025年度までの3次目標を設定し引き続き移動等円滑化を推進。

		2020年度末の目標達成状況	2020年度までの2次目標(令和2年度末)	2025年度までの3次目標 (2次目標からの変更部分を赤字で記載)	
鉄軌道	鉄軌道駅	95%※1※2	○3,000人/日以上の鉄軌道駅を原則100%	○3,000人/日以上及び基本構想の生活関連施設に位置付けられた2,000人/日以上の鉄軌道駅を原則100%【指標を追加】	
	ホームドア・可動式ホーム柵	943駅 (2,192番線)	※交通政策基本計画において2020年度までに約800駅の整備を行う	○3,000番線(10万人以上は800番線)	
	鉄軌道車両	76%	○約70%	○約70%※3 ※車両のバリアフリー基準改正を踏まえて設定	
バス	バスターミナル	94%※1※2	○3,000人/日以上を原則100%	○3,000人/日以上及び基本構想の生活関連施設に位置付けられた2,000人/日以上のバスターミナルを原則100%【指標を追加】	
	乗合バス車両	ノンステップバス	64%	○約70%(対象から適用除外認定車両(高速バス等)を除外)	○約80%※3
		リフト付きバス等	6%	○約25%(リフト付バス又はスロープ付きバス。適用除外認定車両(高速バス等)を対象)	○約25%※3(リフト付バス又はスロープ付きバス。適用除外認定車両(高速バス等)を対象)【指標を追加】
	貸切バス車両	1,975台	○約2,100台	○同左※3	
船舶	旅客船ターミナル	100%※1※2	○3,000人/日以上の旅客船ターミナルを原則100%	○2,000人/日以上の旅客船ターミナルを原則100%【指標を追加】	
	旅客船(旅客不定期航路事業の用に供する船舶を含む。)	53%	○約50%	○約60%※3	

※1 旅客施設は段差解消済みの施設の比率。

※2 新型コロナウイルス感染症の影響で旅客需要の減少が継続。

※3 車両等におけるバリアフリー化の内容として、段差の解消、運航情報提供設備(車両等の運行(運航を含む)に関する情報を文字等により表示するための設備及び音声により提供するための設備。福祉タクシーにあっては、音声による情報提供設備及び文字による意思疎通を図るための設備)の設置等が含まれる旨を明記。

基本方針に定める移動等円滑化の目標達成状況の概要(全国)

(令和2(2020)年度末現在)

バリアフリー法に基づく基本方針に定められた2020年度までの整備目標の達成状況は下記のとおり。2021年度からは2025年度までの3次目標を設定し引き続き移動等円滑化を推進。

		2020年度末の目標達成状況	2020年度までの2次目標(令和2年度末)	2025年度までの3次目標 (2次目標からの変更部分を赤字で記載)
航空	航空旅客ターミナル	100%※1※2	○3,000人/日以上 <small>の航空旅客ターミナルを原則100%</small>	○2,000人/日以上 <small>の航空旅客ターミナルを原則100%</small> 【指標を追加】
	航空機	99%	原則100%	○同左※3
タクシー	福祉タクシー車両	41,464台	約44,000台	○約90,000台※3【指標を追加】
道路	重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する道路	91%	原則100%	○約70% ※対象が約1,700km→約4,450kmとなったことを踏まえて設定
都市公園	園路及び広場	59%	約60%	○規模の大きい概ね二ヘクタール以上の都市公園について約70%
	駐車場	50%	約60%	○規模の大きい概ね二ヘクタール以上の都市公園について約60%
	便所	38%	約45%	○規模の大きい概ね二ヘクタール以上の都市公園について約70%
路外駐車場	特定路外駐車場	71%	約70%	○約75%
建築物	2,000㎡以上の特別特定建築物のストック	62%	約60%	○約67%
信号機等	主要な生活関連経路を構成する道路に設置されている信号機等	98%	原則100%	○原則100%【指標を追加】

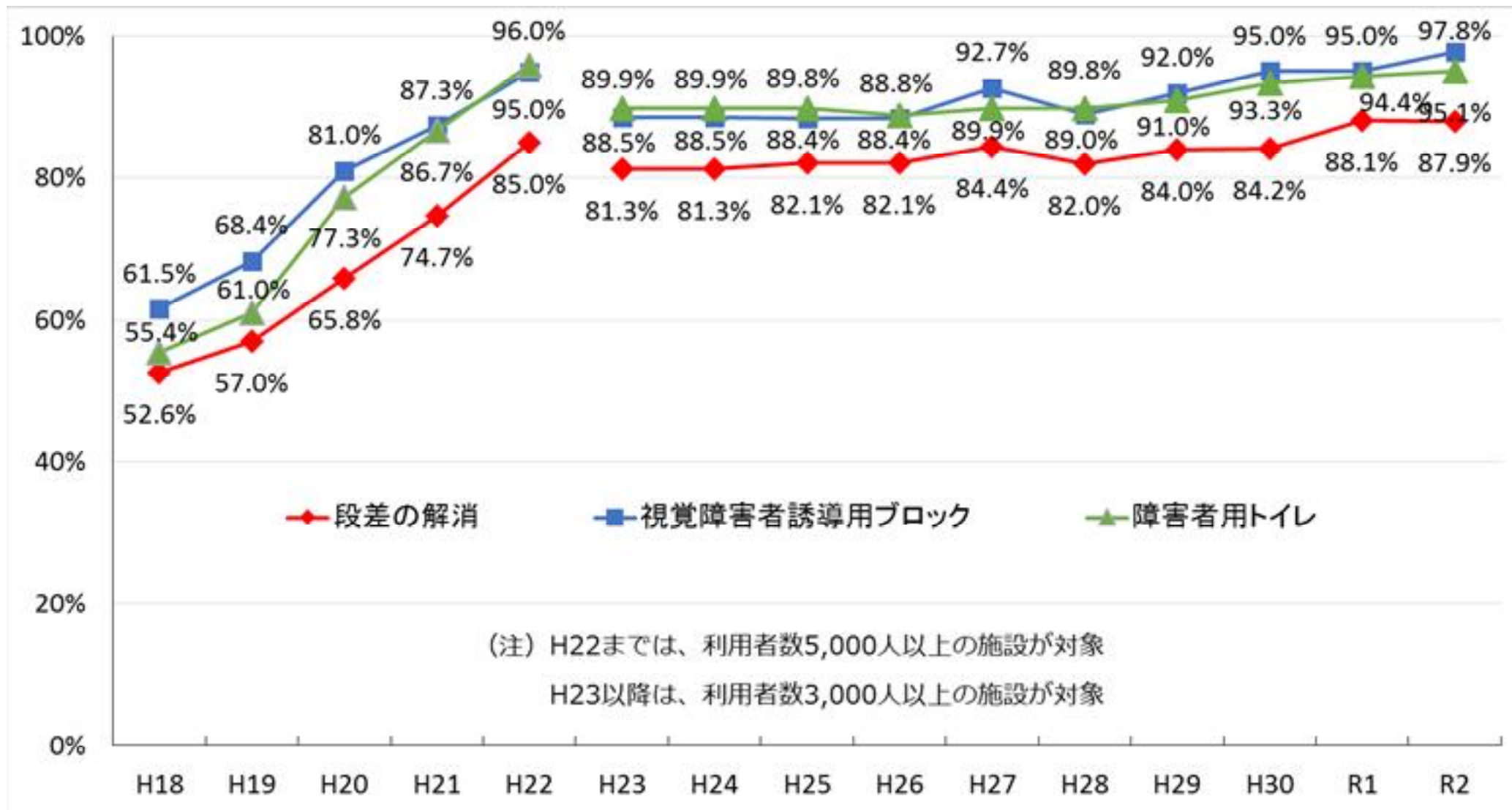
※1 旅客施設は段差解消済みの施設の比率。

※2 新型コロナウイルス感染症の影響で旅客需要の減少が継続。

※3 車両等におけるバリアフリー化の内容として、段差の解消、運航情報提供設備(車両等の運行(運航を含む)に関する情報を文字等により表示するための設備及び音声により提供するための設備。福祉タクシーにあっては、音声による情報提供設備及び文字による意思疎通を図るための設備)の設置等が含まれる旨を明記。

◆鉄軌道駅のバリアフリー化の目標

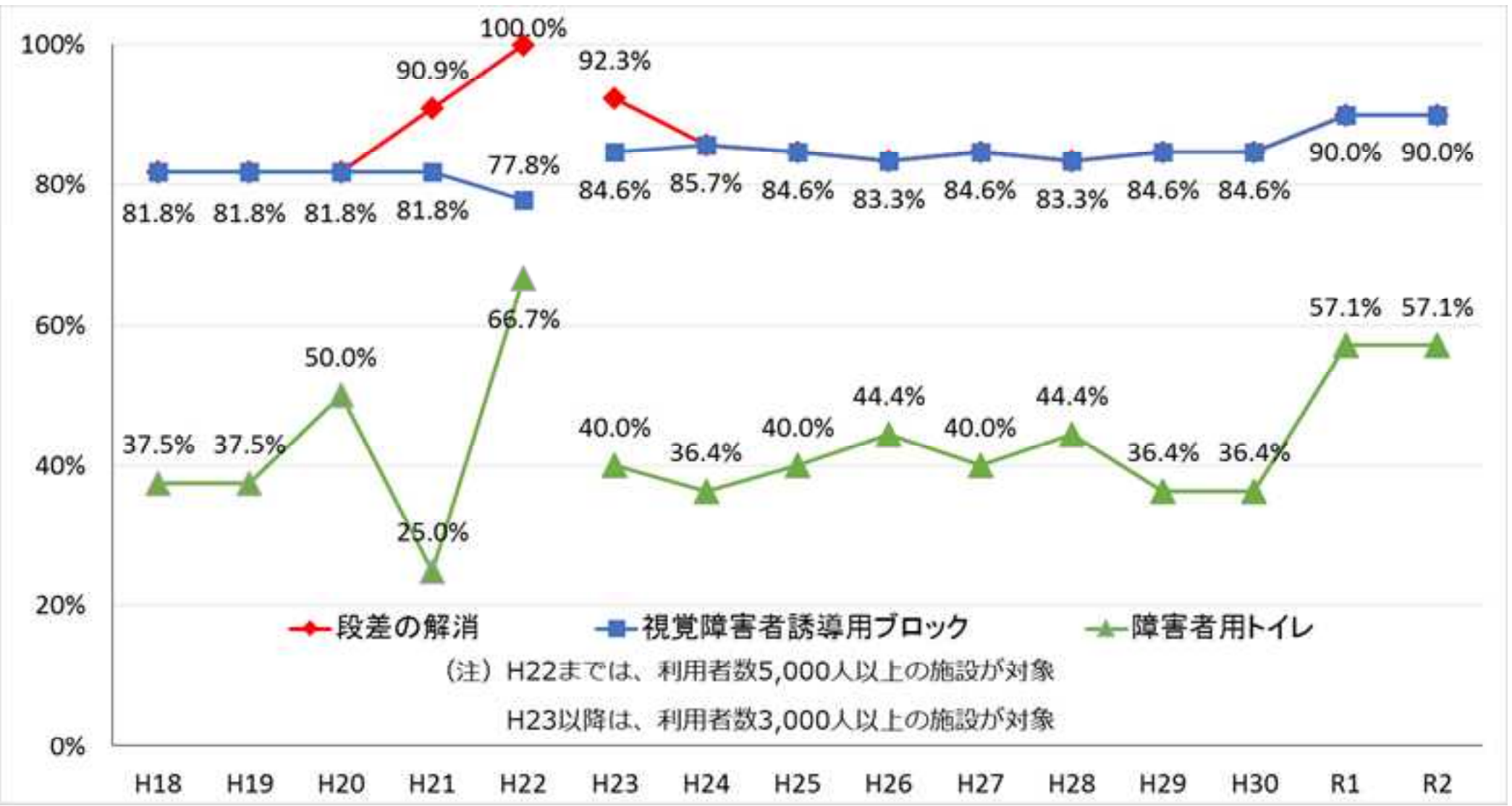
一日あたりの平均的な利用者数が3,000人以上である鉄道駅及び軌道停留所については、令和2年度までに、原則として全てについて、移動等円滑化を実施する。



北海道におけるバリアフリー化の推移(バスターミナル)

(令和2(2020)年度末現在)

◆バスターミナルのバリアフリー化の目標
 一日あたりの平均的な利用者数が3,000人以上であるバスターミナルについては、令和2年度までに、原則として全てについて、移動等円滑化を実施する。



北海道におけるバリアフリー状況(旅客施設)

(令和2(2020)年度末現在)

- ・鉄軌道駅のバリアフリー化は、段差の解消が87.9%、視覚障害者誘導用ブロックが97.8%、障害者トイレの設置が95.1%実施済み
- ・バスターミナルのバリアフリー化は、段差の解消が90.0%、視覚障害者誘導用ブロックが90.0%、障害者トイレの設置が57.1%実施済み
- ・航空旅客ターミナルのバリアフリー化は、平成22年度に目標を達成(100%)済み

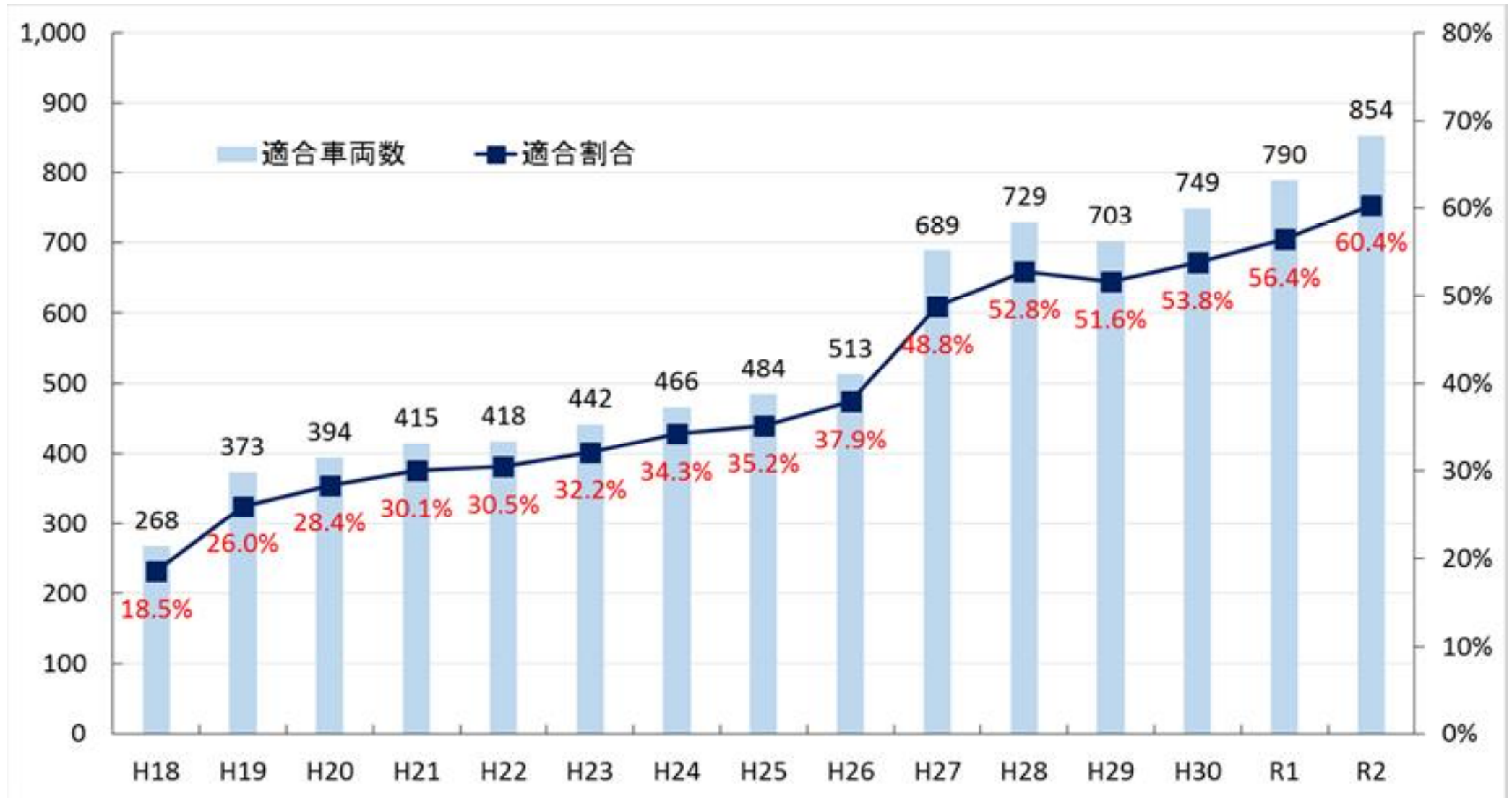
目標値:100%/令和2年度末(全国)	鉄軌道駅		バスターミナル		旅客船ターミナル		航空旅客ターミナル	
	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
施設数	91	3,251	10	36	—	8	1	16
(うちトイレ設置施設数)	82	3,074	7	27	—	8	1	16
段差の解消(施設数)	80	3,090	9	34	—	8	1	16
割合	87.9%	95.0%	90.0%	94.4%	—	100.0%	100.0%	100.0%
視覚障害者誘導用ブロック(施設数)	89	3,158	9	35	—	8	1	16
割合	97.8%	97.1%	90.0%	97.2%	—	100.0%	100.0%	100.0%
障害者トイレの設置(施設数)	78	2,832	4	22	—	8	1	16
割合	95.1%	92.1%	57.1%	81.5%	—	100.0%	100.0%	100.0%

※障害者トイレ設置割合はトイレを設置している施設に対する割合

※赤塗りはバリアフリー化率が全国平均より高いもの

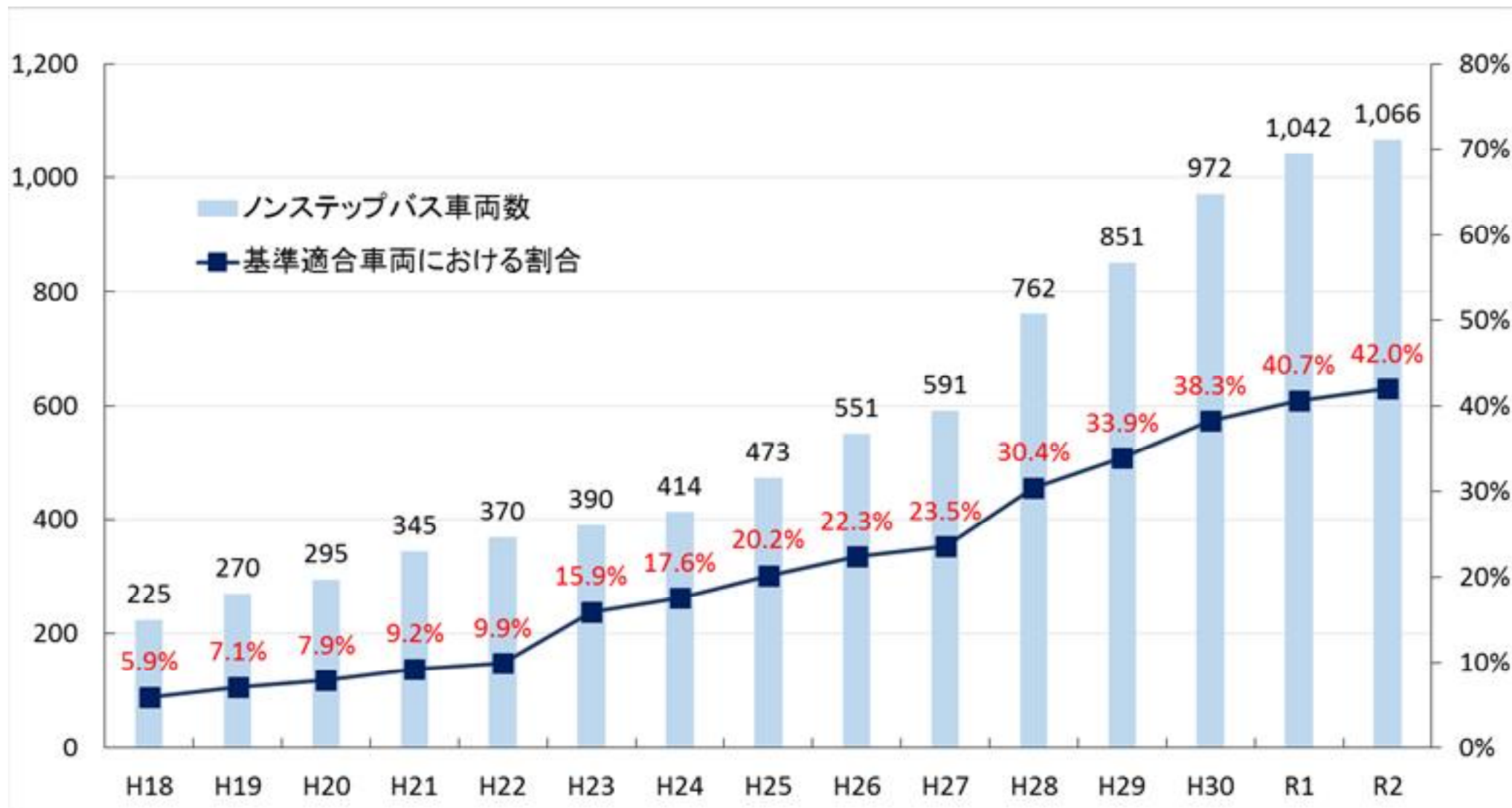
◆鉄軌道車両のバリアフリー化の目標(全国)

総車両数約52,000両のうち、約70%にあたる約36,400両について、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。



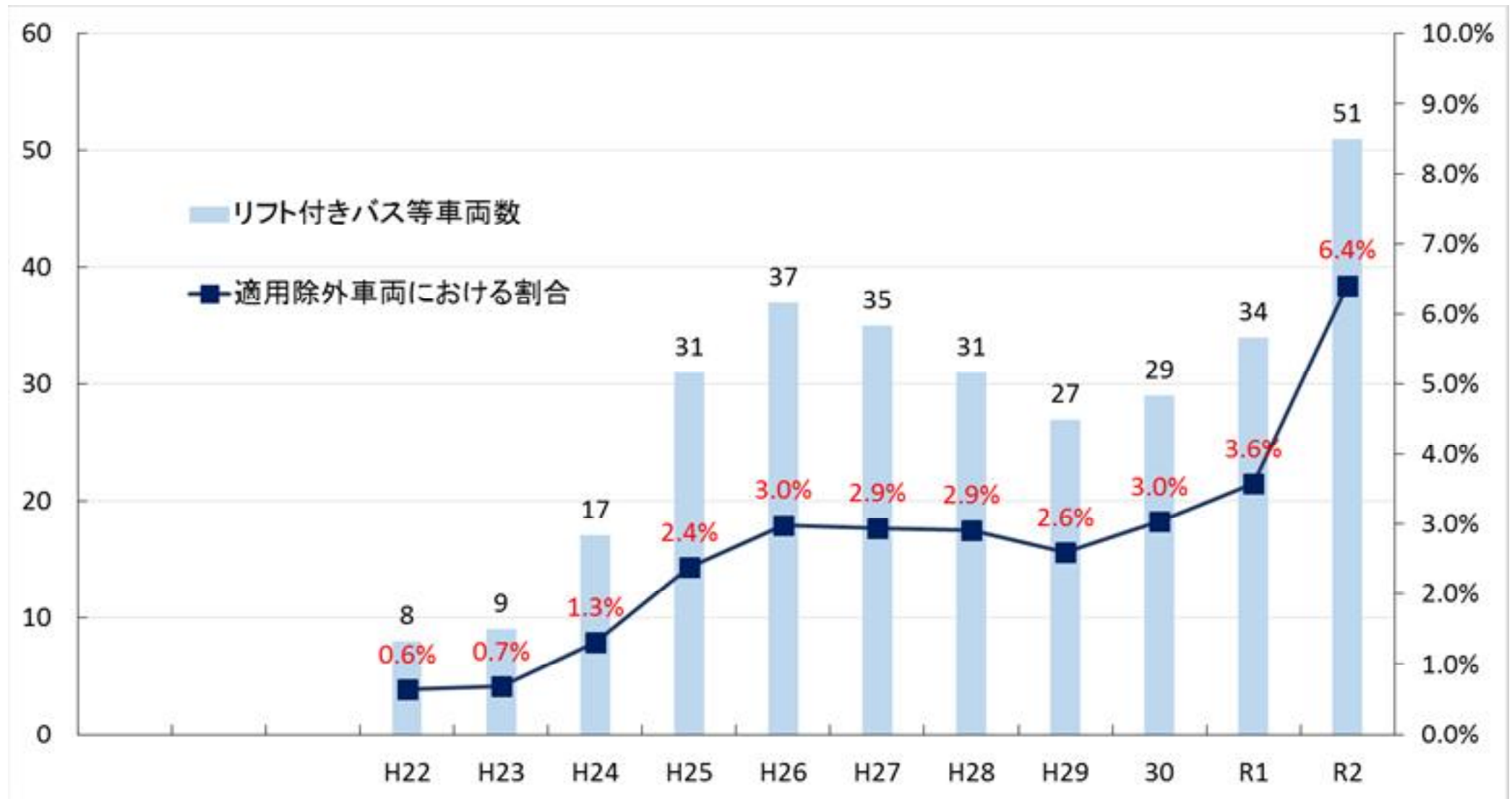
◆ノンステップバス導入の目標(全国)

総車両数約6万台からバス車両の構造及び設備に関する移動等円滑化基準の適用除外認定車両約10,000台を除いた5万台のうち、約70%にあたる約35,000台について、令和2年度までに、ノンステップバスとする。



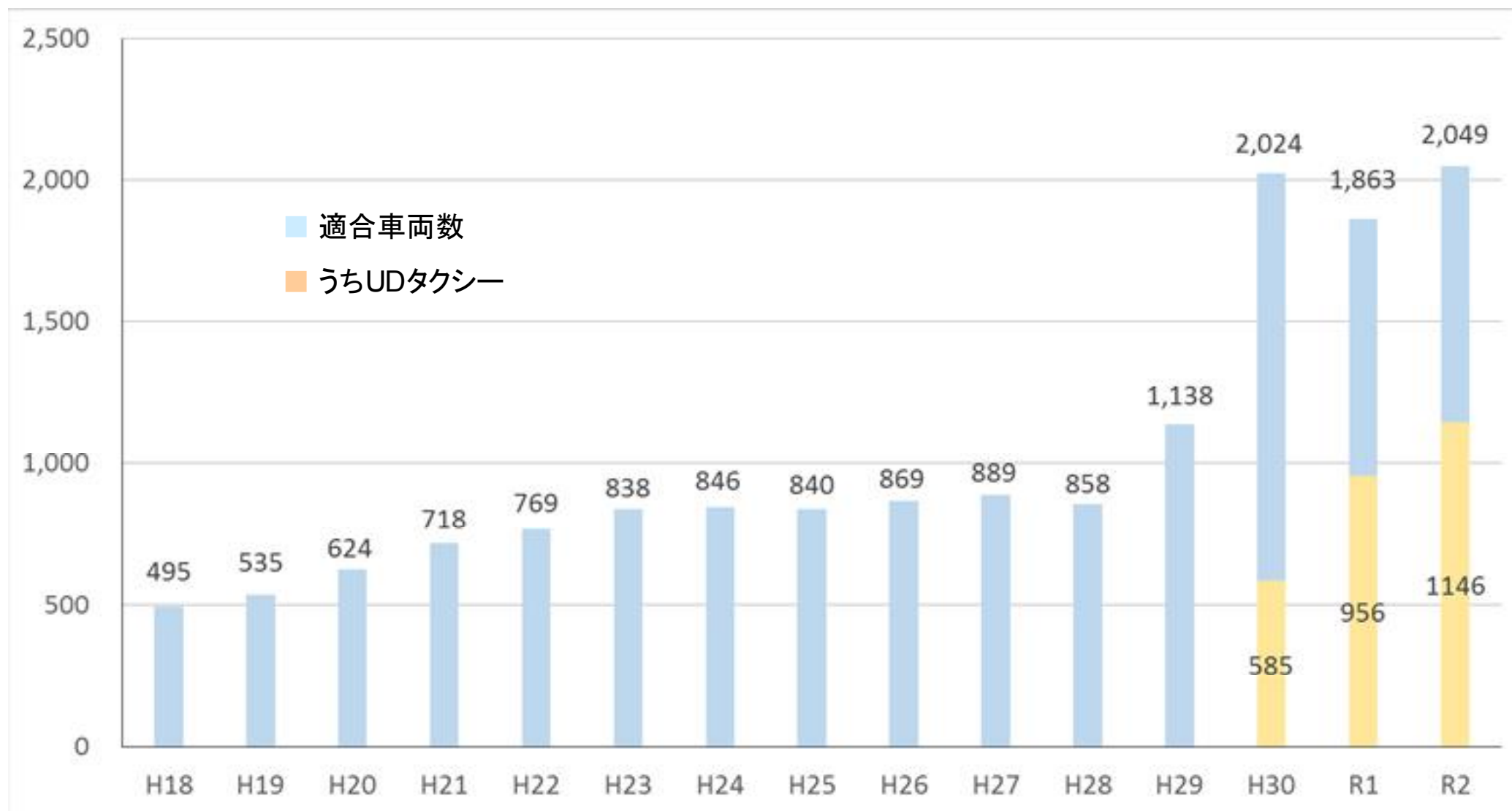
◆リフト付きバス等の導入の目標(全国)

適用除外認定車両については、令和2年度までに、その約25%にあたる約2,500台をリフト付き又はスロープ付きバスとする等、高齢者、障害者等の利用の実態を踏まえて、可能な限りの移動等円滑化を実施する。



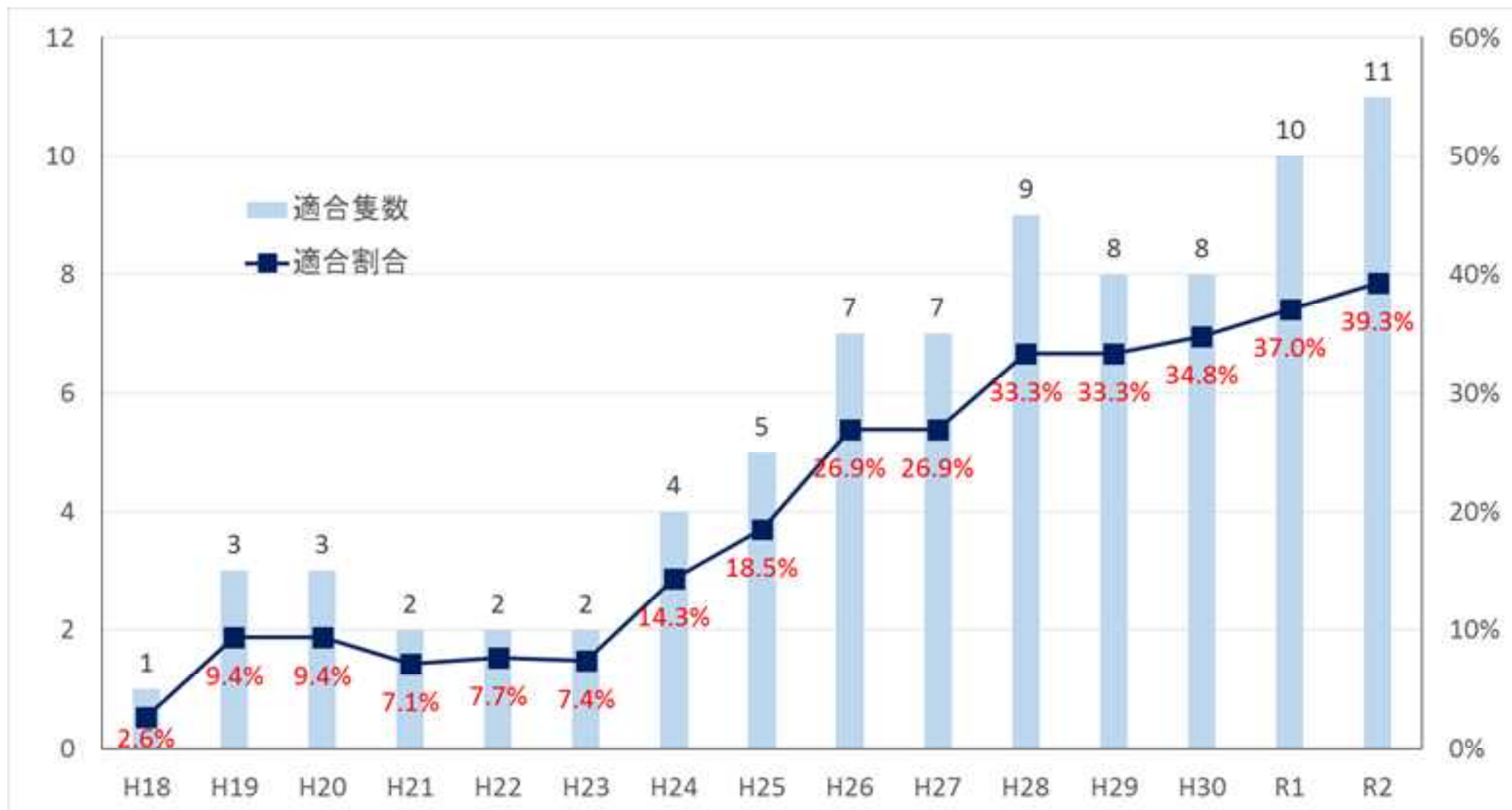
◆福祉タクシーの導入の目標(全国)

令和2年度までに、約44,000台の福祉タクシー(ユニバーサルデザインタクシー(流し営業にも活用されることを想定し、身体障害者のほか、高齢者や妊産婦、子供連れの人等、様々な人が利用できる構造となっている福祉タクシー車両をいう。)を含む。)を導入する。



◆旅客船のバリアフリー化の目標(全国)

一般旅客定期航路事業及び旅客不定期航路事業の用に供する総隻数約700隻のうち約50%に当たる約350隻について、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。



北海道におけるバリアフリー状況(車両等)

(令和2(2020)年度末現在)

- ・鉄軌道車両のバリアフリー化は60.4%、ノンステップバスの導入は42.0%、リフト付きバスの導入は6.4%、旅客船のバリアフリー化は39.3%が実施済み
- ・福祉タクシーの導入は2,049台、そのうち1,146台はUDタクシーである

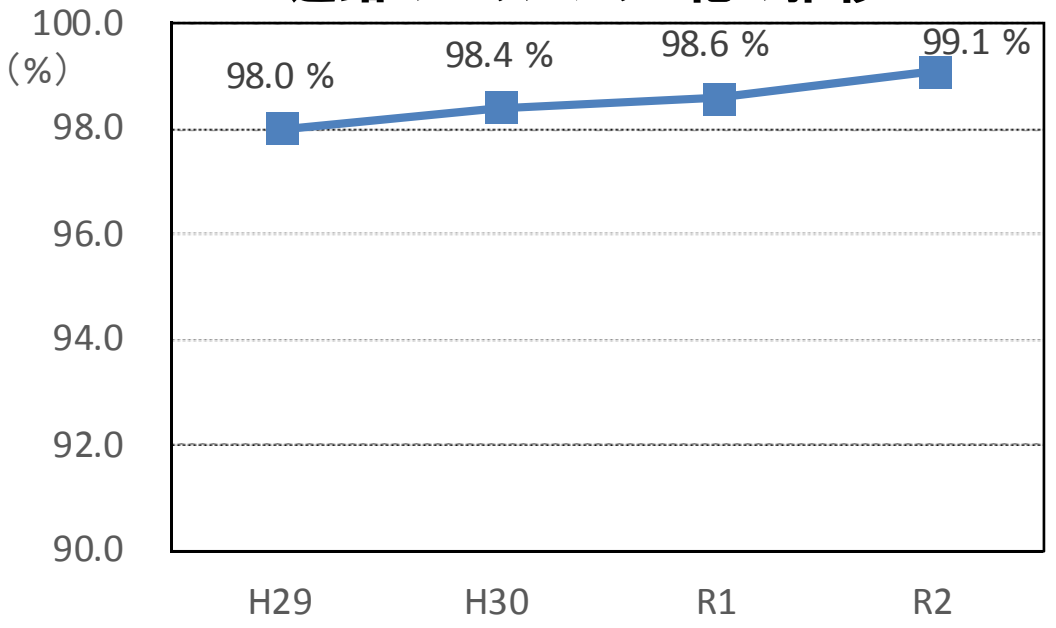
目標値 (全国)	鉄軌道車両		ノンステップバス		リフト付きバス		福祉タクシー		旅客船	
	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
約70%/2020年度末			約70%/2020年度末 (適用除外認定車両を除く)		約25%/2020年度末 (適用除外認定車両)		約44,000台/ 2020年度末		約50%/ 2020年度末	
総数	1,415	52,645	2,539	46,226	796	11,688			28	668
基準適合 車両数	854	40,027	1,066	29,489	51	674	2,049 ※1,146	41,464 ※25,878	11	356
割合	60.4%	76.0%	42.0%	63.8%	6.4%	5.8%			39.3%	53.3%

★赤塗りはバリアフリー化率が全国平均より高いもの

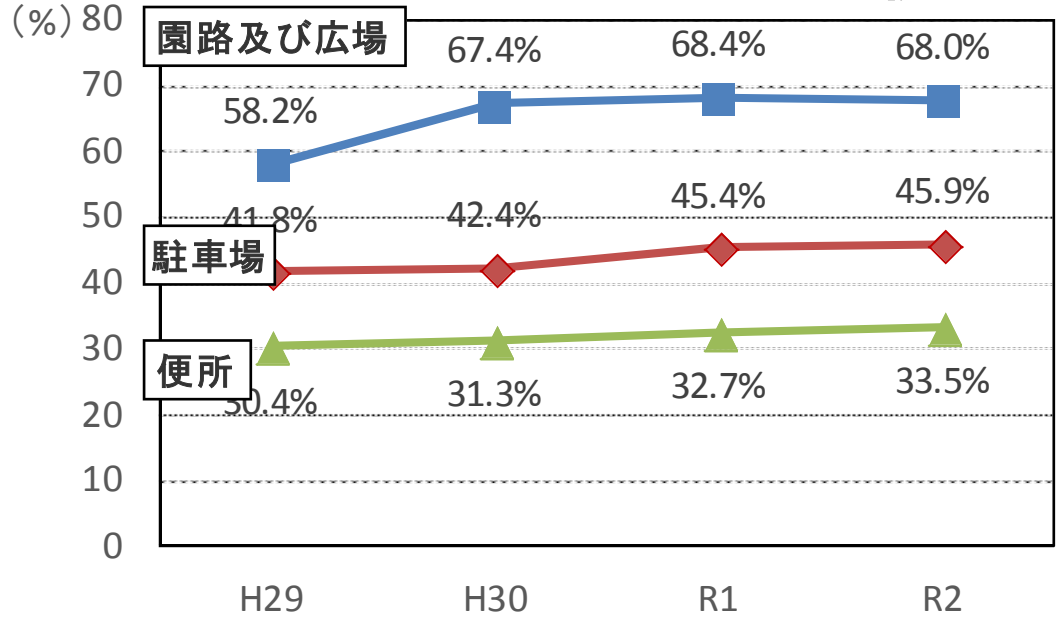
※うちUDタクシー

- ◆道路のバリアフリー化の目標(全国)
原則として重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する全ての道路について、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。
- ◆都市公園のバリアフリー化の目標(全国)
園路及び広場(特定公園施設であるものに限る。以下同じ。)及び駐車場の設置された都市公園の約60パーセント、便所の設置された都市公園の約45パーセントについて、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。
- ◆路外駐車場のバリアフリー化の目標(全国)
特定路外駐車場の約70パーセントについて、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。

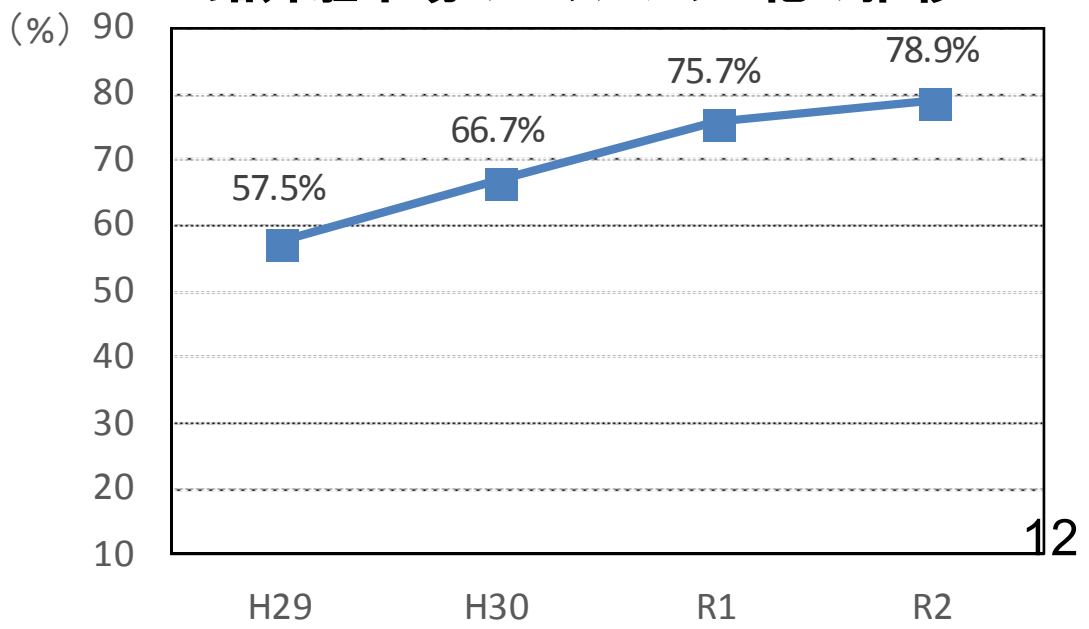
道路のバリアフリー化の推移



都市公園のバリアフリー化の推移



路外駐車場のバリアフリー化の推移



北海道におけるバリアフリー状況(道路・都市公園・路外駐車場)

(令和2(2020)年度末現在)

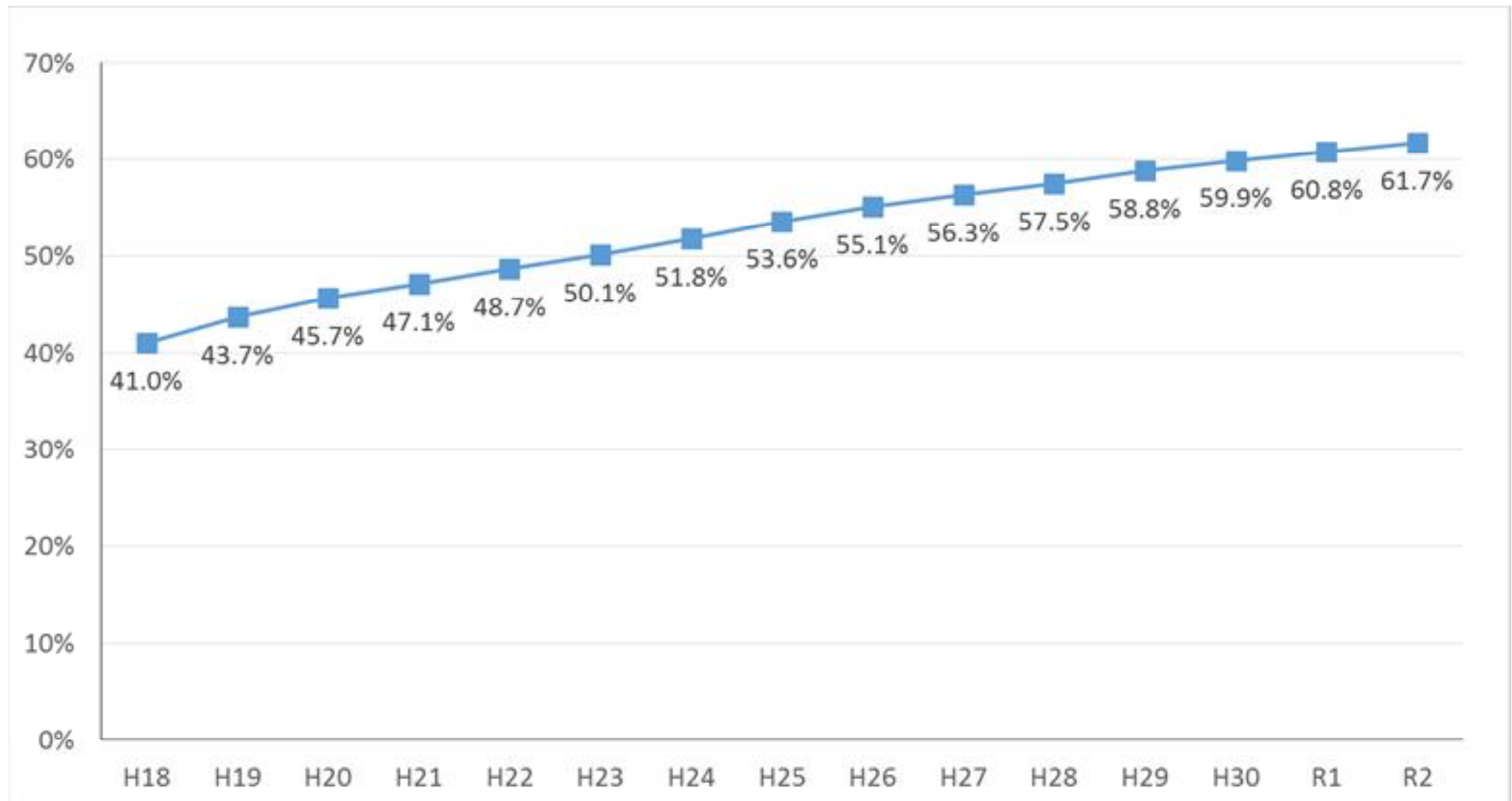
- ・道路のバリアフリー化は、99.1%が実施済み
- ・都市公園のバリアフリー化のうち、園路及び広場は68.0%が実施済みで目標を達成済み、駐車場は45.4%、トイレは32.7%が実施済み
- ・路外駐車場バリアフリー化は75.7%が実施済み

	道路		都市公園						路外駐車場	
			園路及び広場		駐車場		トイレ			
目標値 (全国)	原則100%/ 2020年度末		約60%/ 2020年度末		約60%/ 2020年度末		約45%/ 2020年度末		約70%/ 2020年度末	
	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
総数	184.5km	1,702.7km	7,453	100,756	656	9,371	3,106	36,077	147	3,151
基準適合の数	182.8km	1,555.8km	5,070	59,855	301	4,696	1,041	13,754	116	2,229
割合	99.1%	91.0%	68.0%	59.4%	45.9%	50.0%	33.5%	38.1%	78.9%	70.7%

※赤塗りはバリアフリー化率が全国平均より高いもの

◆建築物のバリアフリー化の目標(全国)

2,000㎡以上の特別特定建築物の総ストックの約60パーセントについて、令和2年度までに、移動等円滑化を実施する。



◆信号機等のバリアフリー化の目標(全国)

重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する道路に設置されている信号機等については、令和2年度までに、原則として全ての当該道路において、音響信号機、高齢者等感応信号機等の信号機の設置、歩行者用道路であることを表示する道路標識の設置、横断歩道であることを表示する道路標示の設置等の移動等円滑化を実施する。

